

2019(令和元)年 夏 レンゲ沼自然探勝路周辺の ヘイケボタルならびにゲンジボタルの出現状況調査

■調査の目的

本調査は、今季の、レンゲ沼自然探勝路周辺における、ヘイケボタル*Luciola lateralis* Motschulsky 並びに ゲンジボタル*Luciola cruciata* Motschulskyの成虫の出現状況を明らかにすることを目的とする。

■調査の方法

当該種の出現が予想される7月～8月、毎週木曜日、およそ20時～20時半にかけて、天候に関わらず現地へ赴き、徒歩で、目視によって、その出現数をカウントした。

ヘイケボタル、ゲンジボタルの識別は、主に光り方(点滅の間隔)が異なることに基づいて判断した。また生息環境の違い(止水環境か流水環境か)も考慮した。

気温は、7月中は、「国道459号線沿い・ホテル裏磐梯アクティブリゾートそばの街路温度計」の数値を、調査終了後に記録した(昨年調査時に記録した「県道2号線沿い・剣ヶ峯ペンションエリアの街路温度計」が故障中のため)。8月には、携帯用デジタル温湿度計を持参し、調査開始時にサイトステーション玄関前(高さ約1m程度の腰壁の上)に置き、調査終了時の数値を記録した。なお、携帯用デジタル温湿度計の精度は、「温度:±2℃」「湿度:温度25℃時±8%」である(メーカー記載)。

空間放射線量は、裏磐梯サイトステーション横の観測機の表示を記録した。

■調査地

<図1>に示す。

<図1.調査地>



■調査者

高橋千帆 ((公財)日本自然保護協会会員・自然観察指導員)

■調査結果

2019年7月4日～8月29日の毎木曜、計9回実施し、その結果を、以下の<表1.>に示す。

<表1. ヘイケボタル並びにゲンジボタルの成虫の出現数>

調査年月日	天候	風 空間放射線量(μSv/h)	気温 (°C)	湿度 (%)	時間	ヘイケ ボタル	ゲンジ ボタル	備考
2019/7/4	晴れ	なし 0.092	16	-	19:59 ~ 20:27	1	0	・新月の翌日
2019/7/11	曇り	やや強風 0.101	17	-	19:56 ~ 20:30	0	0	
2019/7/18	少雨	なし 0.010	19	-	19:55 ~ 20:36	14	0	
2019/7/25	晴れ	なし 0.098	22	-	19:51 ~ 20:23	23	0	・多く蚊にかまれる
2019/8/1	晴れ	なし 0.098	22	82	19:55 ~ 20:25	58	0	・南西の空に薄い雲あり
2019/8/8	曇り	なし 0.104	24.5	83	20:00 ~ 20:33	21	0	・星が少しだけ見える ・遠く雷が聞こえる
2019/8/15	曇り +少雨	強風 0.107	23.8	90	19:50 ~ 20:18	6	0	・台風10号到来 ・月は見えず
2019/8/22	曇り +少雨	なし 0.096	20.3	Hi (90%より 高い)	19:57 ~ 20:23	2	0	・雨上がりで雨はばらつく 程度 ・ヌマガエルの声 が減少 ・カンタン の声が聞 かれる
2019/8/29	雨上がり 曇り	なし 0.095	19.1	Hi (90%より 高い)	19:45 ~ 20:15	0	0	・一等星のみ辛うじて見 える ・新月 ・カエルの声 こえず ・コオロギsp. ・カン タンの声 が聞かれる

■ 考察

本年は、前年(2018(平成30)年)のような渇水にならず、調査地の湿地にも水が安定的に保たれていた様子だった。例えば、裏磐梯サイトステーションに一番近い木道のヨシ原も水に浸っており、毎年クロサンショウウオ・モリアオガエルが産卵する小さな水のたまり場も干上がることなく、レンゲ沼自然探勝路から中瀬沼自然探勝路へ向かう木道のあるハンノキ林床(湿地)には水流を確認できた。

結果、ヘイケボタルについては最大58個体を確認でき、ゲンジボタルについては昨年同様全く観察できなかった。

2009(平成21)~2012(平成24)年度の調査(裏磐梯エコツアーリズム協会「モニタリング報告書」調査者:高橋真希氏)と、昨年の調査結果と合わせて考察すると、ヘイケボタルについては、年毎に多少の変化はみられるが、大きな差は生じていないものと考えられる。一点、今年印象に残ったこととして、当該地域のなかでも今年多くの個体を観察できたのはサイトステーションに一番近い木道沿いであったが、昨年はその対岸であったことを記しておく。ゲンジボタルについては、昨年同様である。2009(平成21)、2010(平成22)年度には20、16の記録があるが、2011(平成23)、2012(平成24)年度には0、1という結果である。2013(平成25)~2017(平成29)年度の6年間は、本調査が実施されていない為、安易に「当該地域からゲンジボタルがいなくなった」「当該地域がゲンジボタルの生息に適さない環境に変化した」と結論付けるのは躊躇われる。今後も継続的な調査データが蓄積されることが必要と考える。

余談ではあるが、本年も、裏磐梯の別の地域(本調査地よりも標高がやや低い)では、7月上旬~8月初旬にかけてゲンジボタルを多数、7月中旬~8月中旬にかけてヘイケボタルを少数、観察できたことを付記しておく。